

集団特定健康診査の結果お返し会を活用した簡易スクリーニングの実施

令和7年3月10日

大津市保健所健康推進課（健康支援係）
藤崎 ともみ

大津市概要

人 口	343,380人	高齢者人口	96,047人
世帯数	158,657世帯	高齢化率	28.0%
面 積	464.5km ²		

(令和7年2月1日現在)

- ◆ 大津市は、滋賀県の南西部に位置する県庁所在地
- ◆ 地形は南北45.6kmと細長い
- ◆ 琵琶湖と山々の豊かな自然に囲まれ、世界遺産や歴史的建造物に恵まれている、自然・歴史・文化が調和したまち



写真：びわ湖大津観光協会

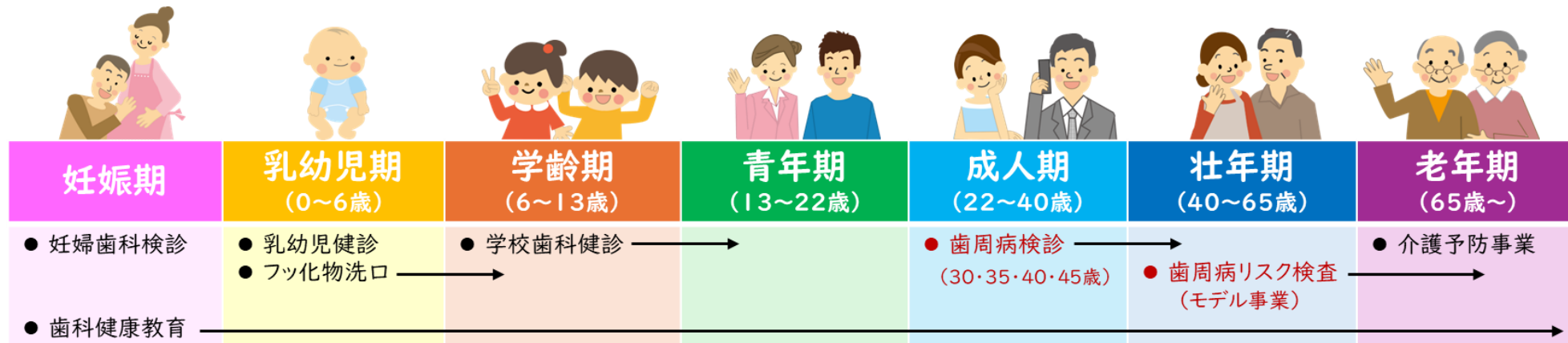


21世紀版光源氏
おおつ光ルくん
(大津市観光キャラクター)



これまでの取組と課題

歯科保健事業は、健康推進課をはじめ、母子保健課・幼保支援課・長寿政策課・学校教育課等、各部局において実施している



＜＜課題＞＞

成人期（就労世代）を対象とした歯科保健施策は歯周病検診が中心であり、歯周病と全身疾患との関連性や、定期歯科検診の重要性についての周知・啓発が不十分

令和4年度から厚生労働省のモデル事業に参加

＜＜事業化を見据えて効果的・効率的な運用方法等を検証＞＞

- ◎ 既存事業との同時実施（各会場のレイアウト、動線、スタッフへの説明等）
- ◎ 歯科衛生士の稼働
- ◎ 参加者一人当たりのチェアタイム
- ◎ 啓発チラシ、指導媒体
- ◎ 必要経費



モデル事業の概要

【対象】 大津市国民健康保険被保険者で、集団特定健康診査の結果お返し会に参加した者（40歳～74歳）

【方法】 唾液検査用試験紙（LDH test NAGATA）を用いて歯周病リスク検査および歯科保健指導を実施。
事前・事後アンケートを通じて意識・行動変容を検証した。

【日程】 2024年9月30日～12月2日（計10日間）

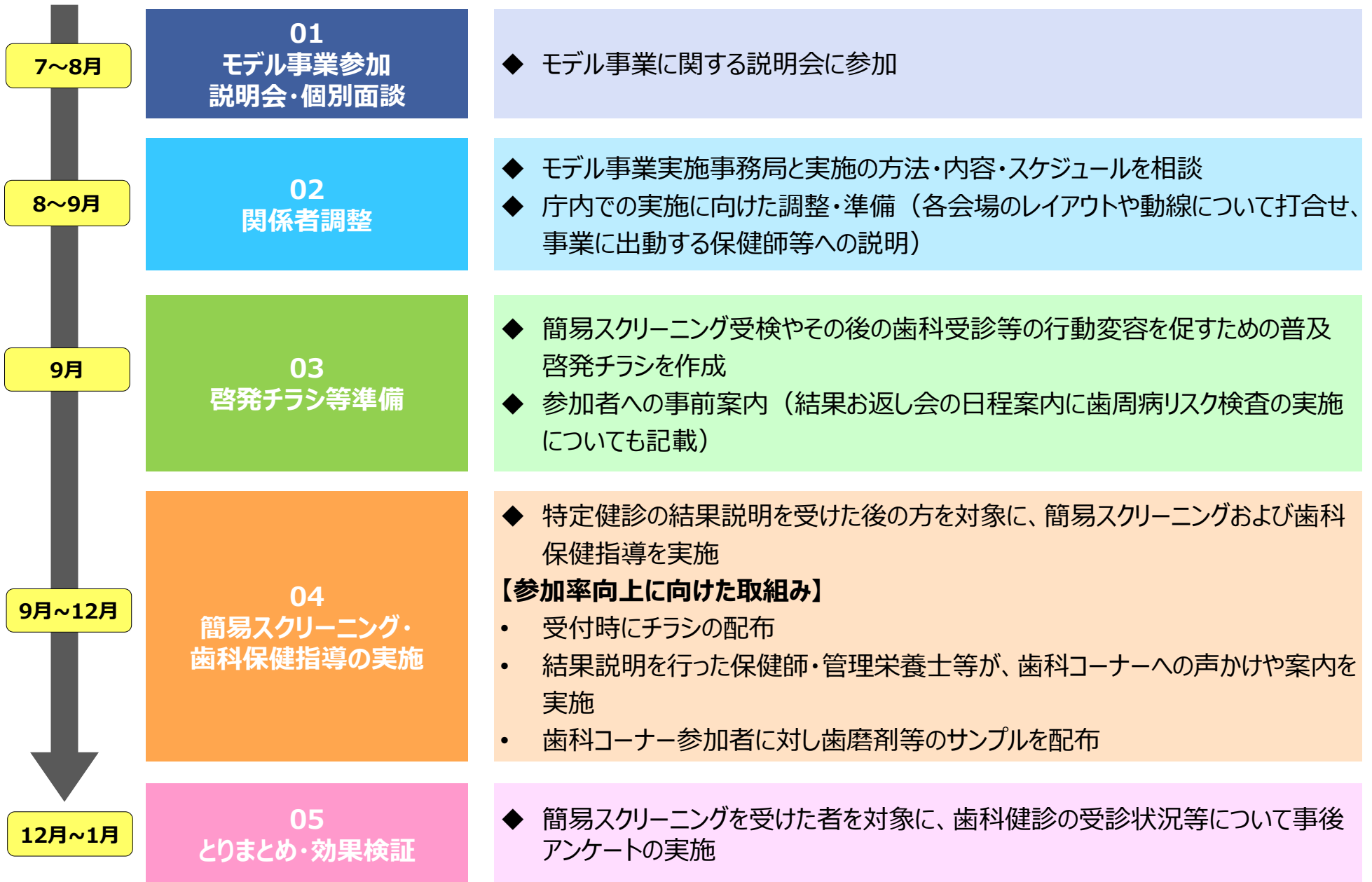
【LDH test NAGATA】

唾液中に含まれる乳酸脱水素酵素(LDH) の活性を測定するための試験紙。

唾液を試験紙に浸し、60 秒後の発色部の色調をみて歯周病リスクを確認するもの。



モデル事業実施の流れ



モデル事業当日の流れ



受付にて
簡易スクリーニングの周知



特定健診の結果説明



検体採取

歯科コーナー



歯科衛生士が
結果説明、歯科保健指導



特定健診結果により糖尿病のリスクが高い方（HbA1c6.5%以上）に対し、保健師等が啓発チラシを用いて、歯周病と糖尿病との関連性を説明し歯科受診勧奨を行う。（実施人数：11名）



【実施結果】

対象者447名のうち、290名がリスク検査を実施した。（参加率：64.9%）

年代別検査結果内訳（n=282）

	A リスク低	B リスク中	C リスク高	総計
30代	1	0	0	1
40代	21	12	1	34
50代	17	21	0	38
60代	48	83	1	132
70代	24	46	7	77
総計	111	162	9	282

※年齢や検査結果のデータ欠損者を除外して集計
※年度内の誕生日を迎える前の受診者が含まれており30歳代（39歳）が含まれている



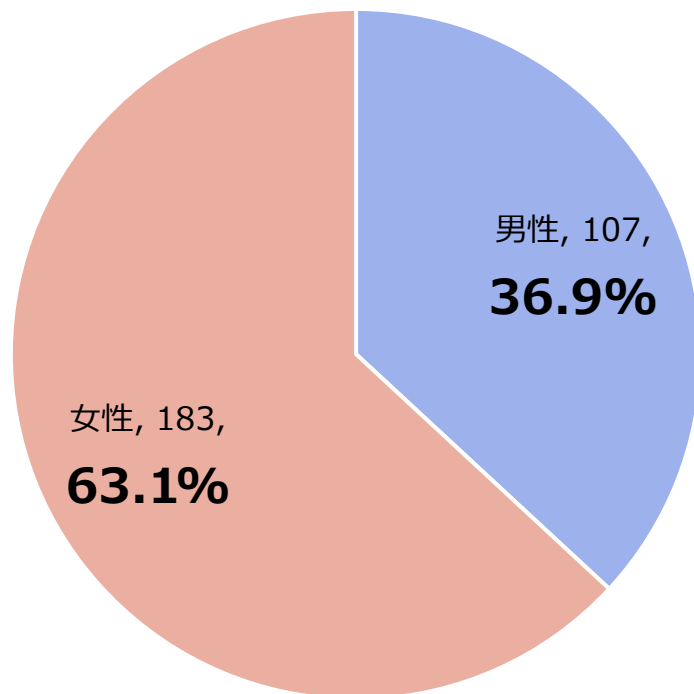
歯科コーナーの様子

参加者の属性

- 参加者の性別は、女性が約6割であった。また、参加者の年齢構成は、60歳代が最も多く、次いで70歳代が多かった。

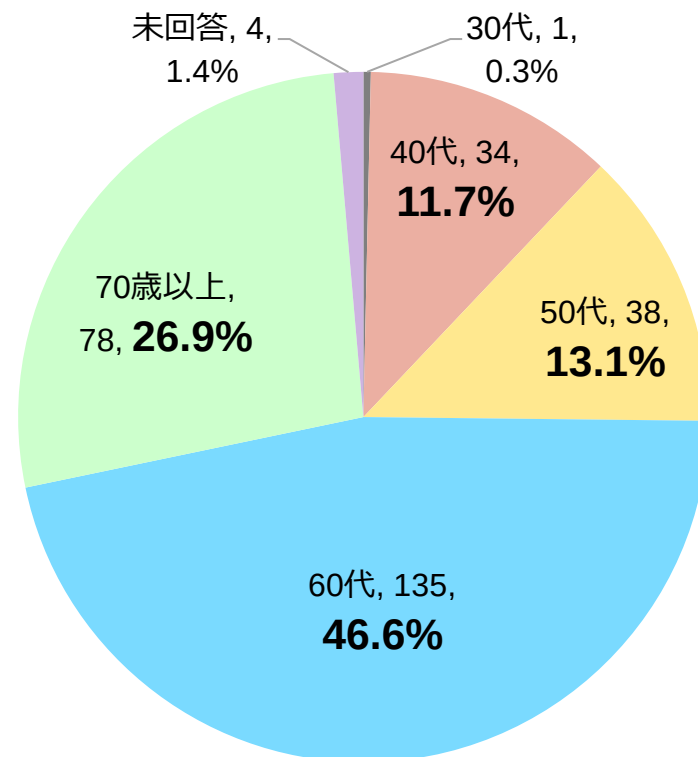
モデル事業参加者の性別

n=290



モデル事業参加者の年齢構成

n=290

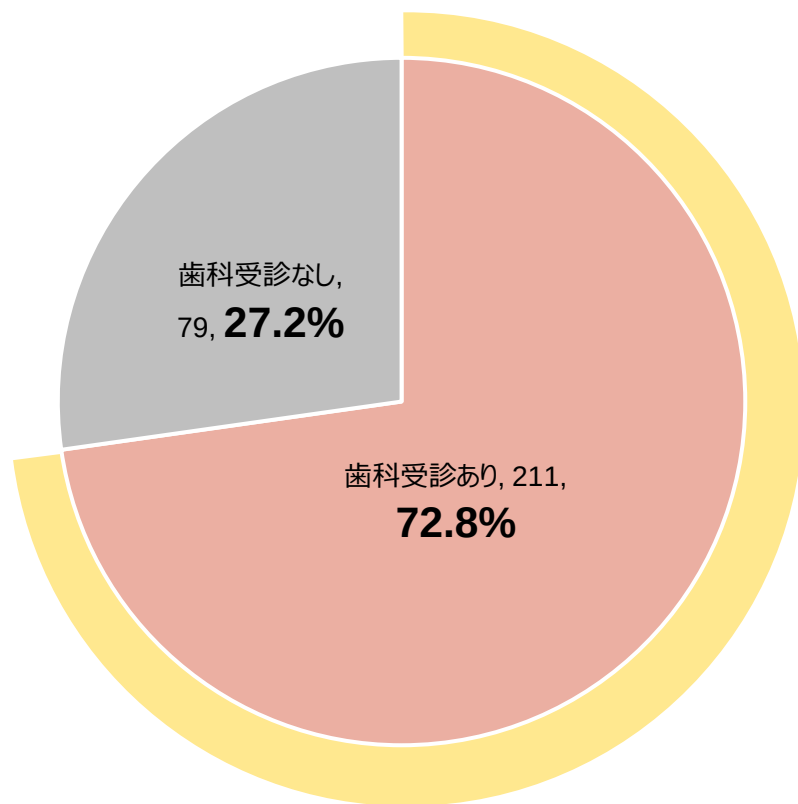


※年度内の誕生日を迎える前の受診者が含まれており30歳代（39歳）が含まれている

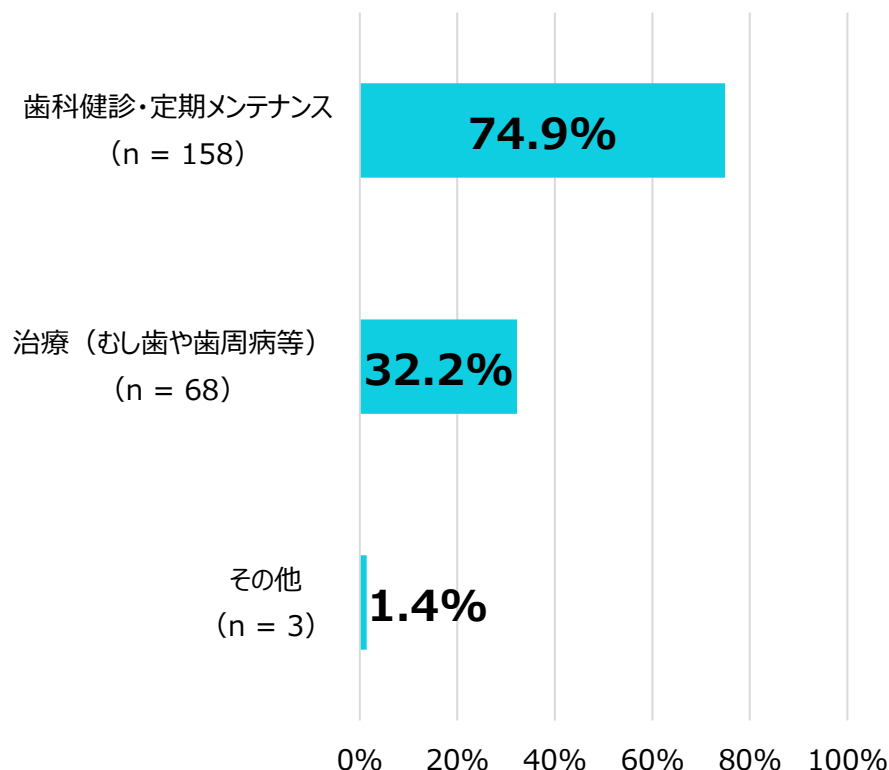
簡易スクリーニング実施前の参加者の歯科受診状況

- 72.8%の者が簡易スクリーニングの実施前過去1年に歯科受診を行っていた。また、その受診理由は、74.9%が歯科健診・定期メンテナンスであった。

簡易な歯科検査**実施前**
過去1年間の歯科受診率 n=290



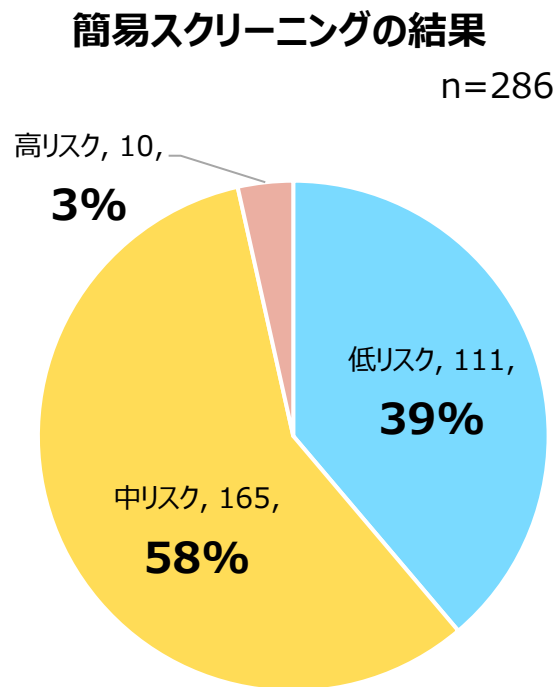
簡易な歯科検査**実施前**
過去1年間の歯科受診目的 n=211



簡易スクリーニングの結果とその後の歯科受診行動

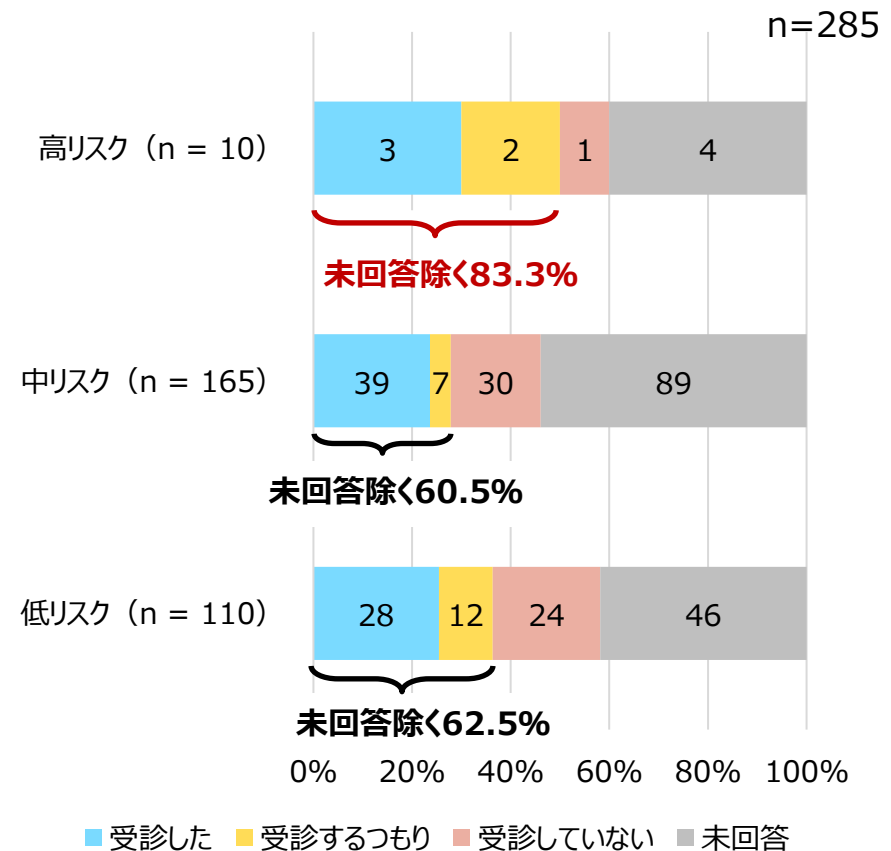
- 簡易スクリーニングの結果「高リスク」であった参加者のうち、未回答を除く80%以上の者が検査後に歯科医療機関を「受診した」または「受診するつもり」と回答した。

簡易スクリーニングの結果とその後の歯科受診状況



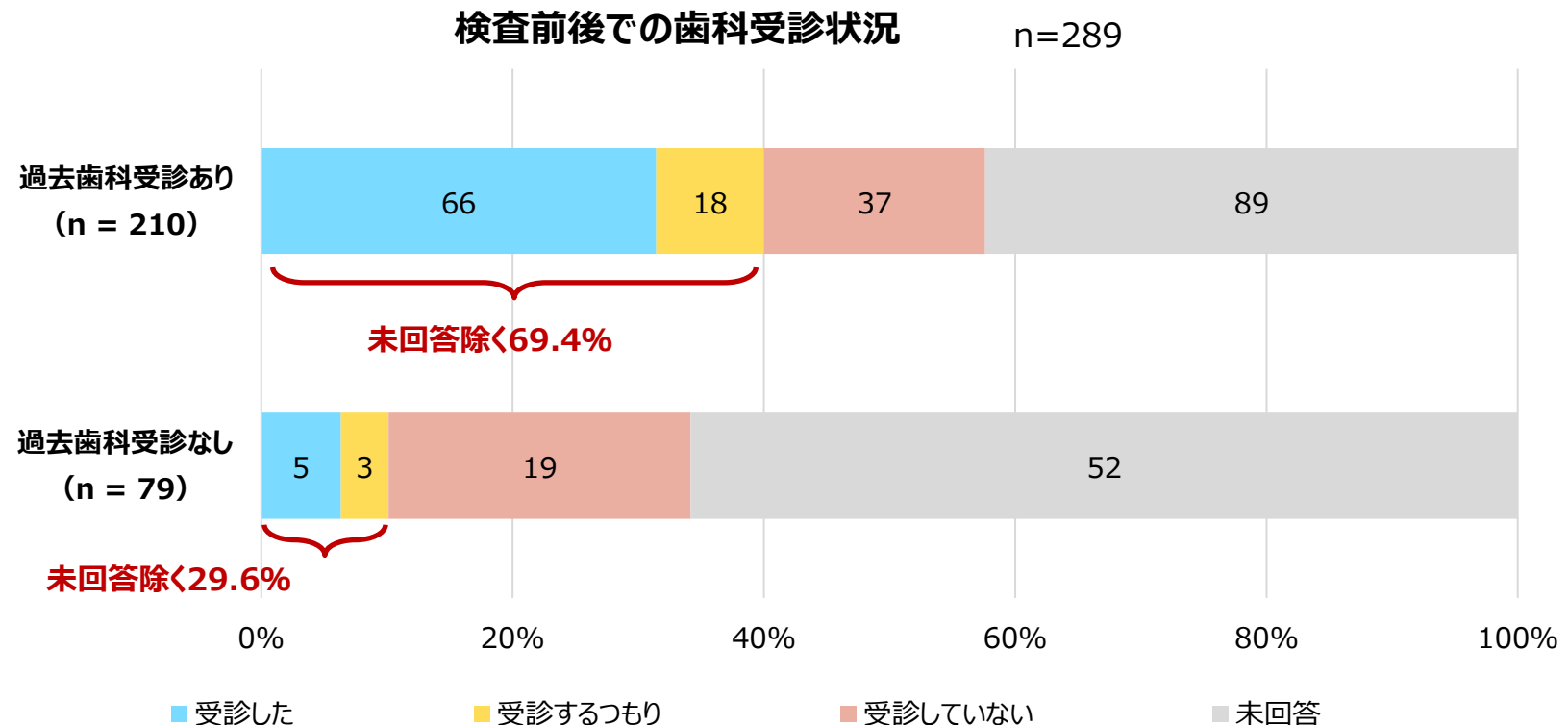
LDHtest NAGATAの下記判定でリスクを分類した
3以下：低リスク、4～7：中リスク、8以上：高リスク

簡易スクリーニングの結果別、検査後の歯科受診状況



簡易スクリーニング実施後の歯科受診状況

- 過去1年の歯科受診がある者の69.4%が簡易スクリーニング実施後「歯科受診した」もしくは「今後受診するつもり」であった。過去1年歯科未受診者では、29.6%が簡易スクリーニング実施後「歯科受診した」もしくは「今後受診するつもり」であった。



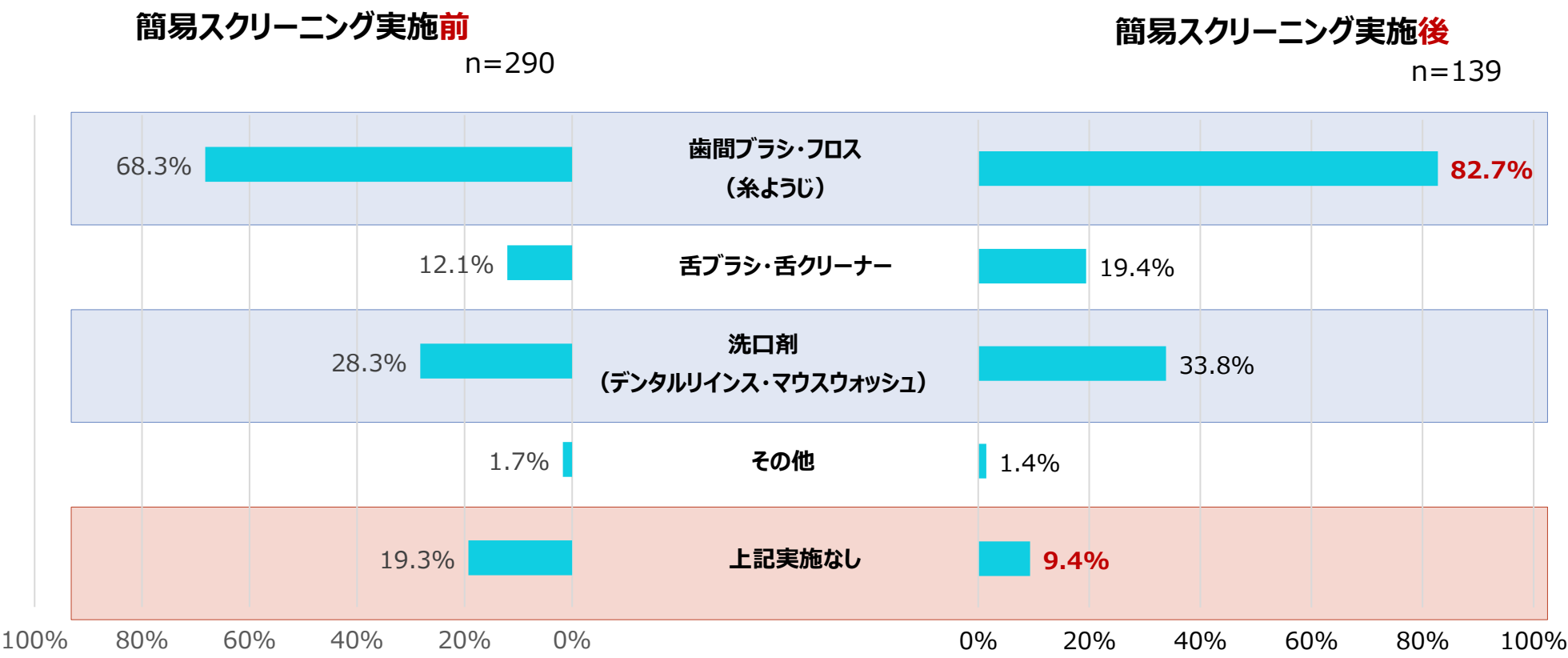
過去歯科受診なしの者のうち検査後に「受診した者」の受診の理由（5名）

結果が悪かった1名、しばらく歯科受診していなかった1名、もともと定期受診予定1名、自覚症状があった2名

簡易スクリーニング実施前後のセルフケアの状況

- セルフケアの実施状況では、**歯間ブラシ・フロスの使用**が68.3%から**82.7%に上昇**（14.4ポイント）、洗口剤が28.3%から33.8%（5.5ポイント）に上昇し、**何も実施していない割合**は19.3%から**9.4%に低下**（9.9ポイント）した。

セルフケア（歯みがき以外のケア用品の使用）

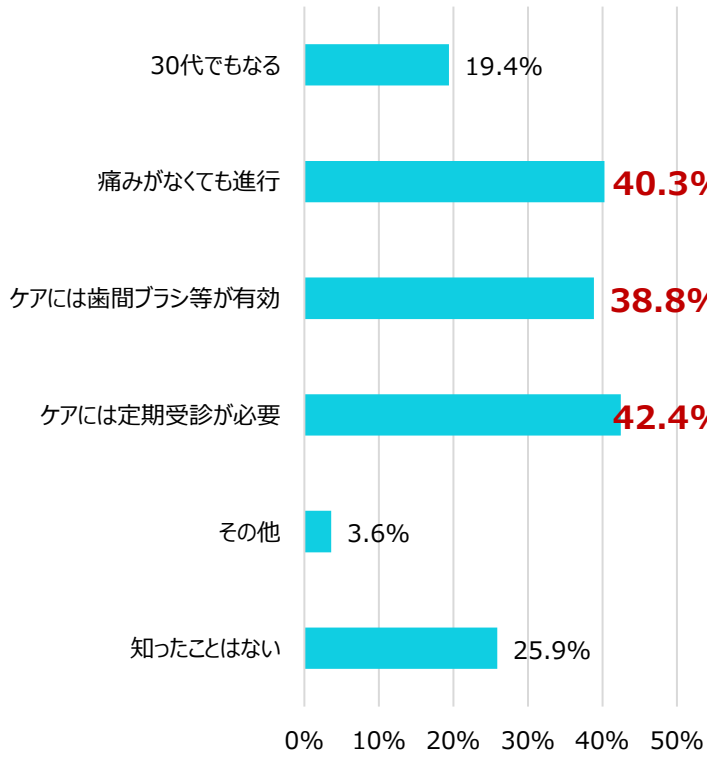


簡易スクリーニングをきっかけとした変化

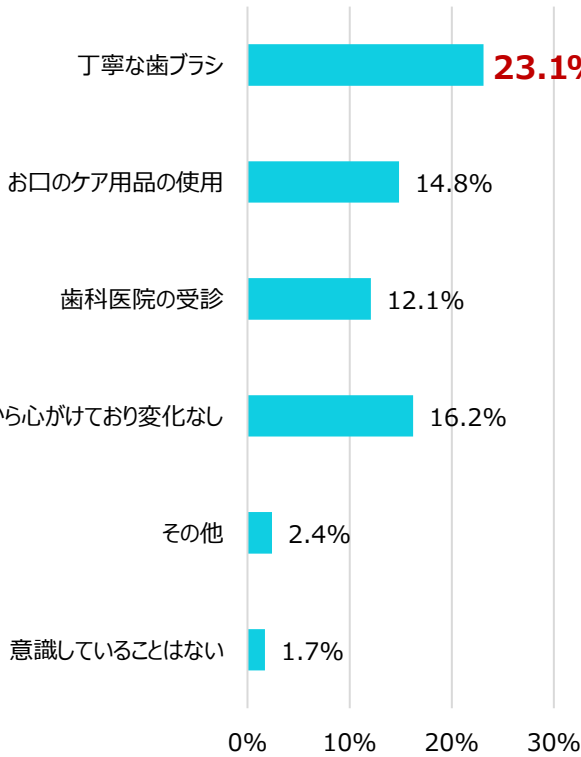
- 簡易スクリーニングをきっかけに知った歯周病の知識としては「ケアには定期受診が必要」「痛みがなくても進行する」「ケアには歯間ブラシ等が有効」がそれぞれ40%程度であった。
- また、簡易スクリーニング実施後の口腔ケアに関する意識の変化として、丁寧な歯ブラシが23.1%で最も高かった。

セルフケア・意識・知識の変化

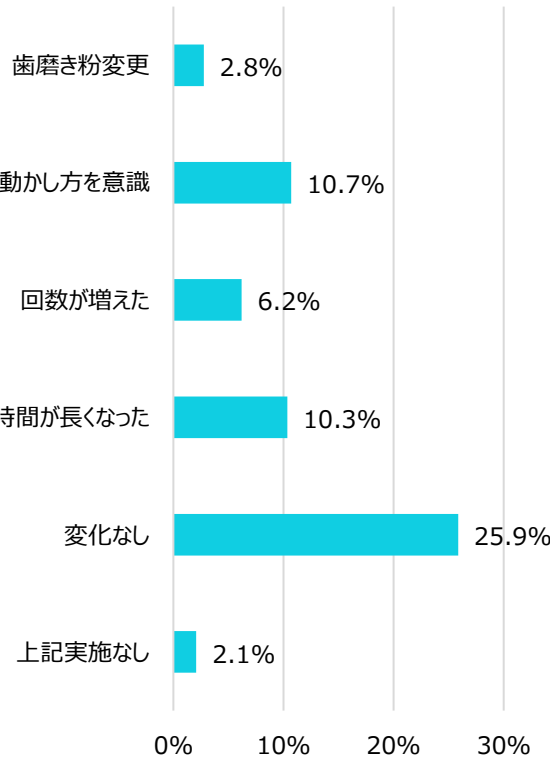
簡易スクリーニングをきっかけに
知った歯周病の知識
n=139



簡易スクリーニング実施後の
口腔ケアに関する意識の変化
n=139



簡易スクリーニング実施後の
歯みがきの変化
n=139



モデル事業を通しての成果と課題

《成果》

◆ 参加者の歯・口腔の健康に関する意識

- ◎簡易スクリーニングの結果を踏まえた歯科保健指導を個別に実施したことで、セルフケアへの意識付けとなり、行動変容が見られた
- ◎参加者の中には、定期的に歯科受診はしているものの、セルフケアへの関心が低い者や、口腔ケア用品の使用方法について十分理解していない者もあり、対面での指導することの意義を感じた

◆ 既存事業と同時実施の利点

- ◎参加者の利便性を高め参加率の向上が期待できる
(参加者は、自身の今の健康状態を知りたい、アドバイスを受けたいと思い結果お返し会に参加していることから、歯科コーナーについても関心をもって参加する方が多かった)
- ◎歯科疾患に関連のある事業に相乗りすることで、より一層の啓発効果が期待できる
(歯科疾患を生活習慣病対策と捉え歯周病と全身疾患や生活習慣の関連についても周知することができた)

モデル事業を通しての成果と課題

《課題》

◆ 出動スタッフへの説明、連携

結果お返し会には、他部署からも保健師等が出動するため、モデル事業の実施について事前説明を行っていたが、当日の連携がスムーズにいかないこともあった。参加率向上のためには、出動スタッフ（多職種）との連携は不可欠。

◆ 無関心層へのアプローチ

歯科コーナーを案内しても断られるケースがあったため、案内方法や情報提供の方法を検討する必要がある。

《今後の展望》

- 3年間のモデル事業の成果を踏まえ、令和7年度から事業化
- 糖尿病ハイリスク者へのアプローチ方法について検討
- 職域と連携した歯科保健対策について検討





ご清聴ありがとうございました